

学童保育事業における事務支援システム

伊吹山 香理 岡本 東 堀川 三好 菅原 光政
岩手県立大学ソフトウェア情報学部

1. はじめに

近年、共働きや父子・母子家庭の増加とともに、それらの家庭の学童（小学生）が放課後に生活する場である学童保育の需要が高まってきている。これに伴い、学童保育所へ学童の入所を希望する親からの「学童保育所がどこにあるのか教えてほしい」という要望や、入所者の親からの「学童保育所での子供の様子を知りたい」という意見が増えてきている。

本研究では、学童保育事業に関わる人を1つのグループとして捉え、グループ活動を支援するシステムである「グループウェア」の考えを取り入れた情報システムを導入することにより、上記のような要望や意見を実現し、学童保育事業の支援を行う。

2. グループウェアについて

グループウェアは、「共通の作業や目的をもった利用者のグループを支援し、共有作業環境へのインタフェースを提供するコンピュータベースのシステム」と定義される¹⁾。

グループウェアの一般的な機能には、電子メール、電子掲示板、スケジュール管理、文書管理、ワークフロー管理などがある。

本研究で作成するシステムには、電子メール、電子掲示板、スケジュール管理、ワークフロー管理を取り入れる。

3. 学童保育事業について

3.1 学童保育とは

学童保育とは、共働き家庭や父子・母子家庭の学童が放課後に生活する施設である²⁾。学校がある日は放課後、長期休み中は一日中そこで同世代の子供達や指導員と一緒に生活し、親が仕事から帰って来るまでの時間を過ごす。

3.2 学童保育事業の問題点

学童保育事業における問題点は、事務の作業が全て手作業であるため、膨大な手間と時間がかかることである。また、この事業には、各都道府県内の全ての学童保育所をまとめる「都道府県学童保育連絡協議会（県連協）」、各都道府県内に散在する「学童保育所（保育所）」、そこに学童を預ける「入所者の親」、学童保育所へ学童の入所を希望する「入所希望者の親」の4者が関わっており、それぞれが相互に情報を得ることが難しいという問題点も挙げられる。

4. システムの概要

4.1 システムの目的

前述の問題点を解決するため、学童保育事業における事務処理の効率化とコミュニケーションの円滑化を目的とした支援システムを開発する。本システムにおける事務処理の支援により、短時間での正確な作業を可能とする。また、グループウェアとして情報を共用できるコミュニケーションツールとすることにより、4者間の情報交換を円滑にする。

4.2 制約条件とシステム化の範囲

本システムは、岩手県の学童保育事業を対象とする。システム化の範囲は、図1の点線で囲んだ部分であり、太線で囲んだ部分は、4者間で共有する情報・機能である。

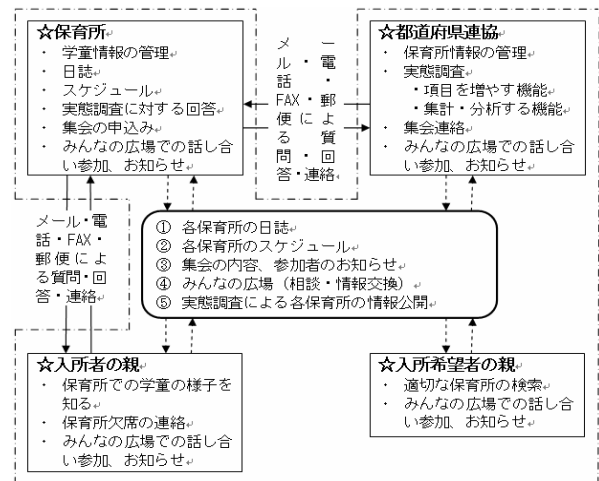


図1 システム化の範囲

The office work support system in a care business of schoolchildren after school hours
Kaori Ibukiyama, Azuma Okamoto, Mitsuyosi Horikawa and Mitsumasa Sugawara
Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

表1 相談機能とその対象者

	県連協	保育所	入所者の親	入所希望者の親
①		○	○	
②		○		
③			○	○
④	○	○	○	
⑤	○	○	○	○

- ①学童相談 ②保育相談 ③子育て相談
 ④集会相談 ⑤お知らせ

表2 開発環境

	サーバ	クライアント
WWW サーバ	Apache2.0.55 Tomcat5.0.28	
RDB	MySQL4.1	
XMLDB	Tamino ver3.1.2.1	
CPU	Intel Pentium II	Intel PentiumM
OS	Linux(Fedora Core2)	WindowsXP

4.3 システムの機能

システムの機能は以下の2つに大別できる。

(1) 事務処理支援の機能

事務支援の機能では、日誌やスケジュール、学童の個人情報など、紙で管理している情報の管理や、集会への参加申込による参加者リストの作成、実態調査の集計などを行う。

(2) コミュニケーション支援の機能

コミュニケーション支援として、掲示板形式で情報交換を行うための相談・お知らせ機能を設けた。相談機能の種類と対象者の対応を表1に示す。

5. システムの実装

5.1 開発環境

開発に用いた環境を表2に示す。プログラミング言語はJava (JSP) を用いている。Javaの開発ツールはJ2SDK1.4.2である。

5.2 動作検証

本システムにおける事務処理支援とコミュニケーション支援の両機能の動作検証を行った。

まず、事務処理支援の機能では実態調査の集計の動作検証を行った。入力した50件のデータから、学童保育事業の集計方法に則した実施形態別の集計結果が得られた(図2)。



図2 実行結果：実態調査の集計結果

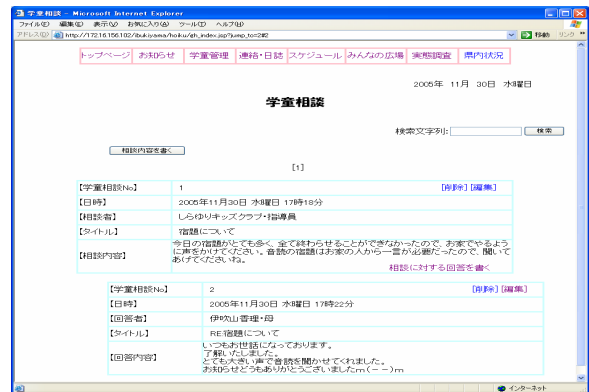


図3 実行結果：相談機能（学童相談）

コミュニケーション支援の機能である学童相談の画面を図3に示す。学童相談は、1つの情報に対してコメントをしていくという形式の掲示板である。他の相談機能も対象者は異なるが、同じ形式である。お知らせの掲示板は、コメントをせずに情報を羅列していく形式の掲示板である。掲示板の伝言に対してコメントできることを確認した。

6. おわりに

本研究では、学童保育事業における事務処理と情報交換の支援システムを開発し、その検証を行った。これにより、本システムの目的である事務処理の効率化とコミュニケーションの円滑化が図れるようになった。今後、グループウェアの機能の拡張と統合的な文書管理によって、有効的な活用を図っていく。

参考文献

- 1) Ellis, C. A., Gibbs, S. J., and Rein, G: "Groupware Some Issues and Experiences", *Comm. of ACM*, Vol.34, No.1, pp.38-58 (1991).
- 2) 全国学童保育連絡協議会: 新版学童保育のハンドブック, 株式会社一声社 (1998).